

ヒヨコのわき道

ほら、君もこっちに いらっしゃい



第11回 ゾウの親戚は誰？アフリカ獣類の顔ぶれ

「特異な風貌の人気者」

動物園に出かけたとして、日本で人気があるのはやっぱりパンダやコアラなのでしょうが、特徴的な体型、その印象的な大きさから、子供たちにはゾウやキリンも人気があるでしょう。蹄（ひづめ）のある動物としては、ウマ、シマウマ、バクが含まれる奇蹄類と、ウシ、キリン、イノシシ、カバが含まれる偶蹄類の仲間が有名ですが、ゾウはこれらの「有蹄類」とはあまり縁が近くありません。少なくともイヌとヒトとの関係よりも、ゾウ達と、ウシウマ達は互いに異なる哺乳類です。現在地球上に生きているゾウはたったの三種類。アジアゾウ、アフリカゾウ、マルミミゾウ（アフリカゾウの小型版）が知られています。これに加えて、1万年ほど前までは、寒冷地に適応したマンモスの仲間もいました。

「現在のゾウさん達」

子供のころはともかく、成獣になってしまえば、自然界で彼らゾウ達は無敵です。その大きな身体で、母系社会を基本とした群れをなして移動し、まるで硬い岩石のように巨大に発達した臼歯（奥歯）と強い顎をもち、硬い木の皮など、栄養価の乏しい粗食にも耐えます。

硬い植物を食べていたら、すぐ歯が磨り減ってしまうはずですが、現代のゾウの臼歯は、私たちヒトのように、乳歯が永久歯に生え変わったら終わりではなく、臼歯が1揃いずつ顎の奥から前方に移動し、磨り減った臼歯と入れ替わっていく「水平換歯」を行います。このため彼らの臼歯は長持ちし、数十年の長い寿命を得ているのです。強い顎をもつ大きな頭は重く、首が短いため、立ったままでは口が地面の水場に届きません。そこで発達したのがあの長くて器用な鼻です。また、大きな身体では、特に身体を冷却する仕組みが重要なのですが、巨体ではもともと大量に飲み水が必要で、身体を冷やすのに大汗をかくのは致命的です。そのためゾウ達は体毛が薄く、放熱のためのラジエーターとして大きな耳を備えているのです。

その巨体の体力で、荒地を渡り、水場を探し当てる知恵と記憶力も持っています。また、死んだ仲間が白骨化して残っているのを見つけると、前足で揺すってみたりもするそうです。死者を回想する感情を持ち合わせているのでしょうか？

「むかしのゾウさんたち」

さて、マンモス以前の世界まで遡ると、ゾウ類はずっとにぎやかな顔ぶれとなります。特に、下顎に二本の牙が下向きに生え、最大で体高4mにもなる「ディノテリウム」は有名ですし、下顎がシャベルのように前に突き出た「プラティペロドン」、上下の顎に2本ずつ、計4本の牙を持つ「ゴンフォテリウム」、ゾウの祖先型に近く原始的で小さな「フィオミア」、現在のゾウとは臼歯が異なる「マストドン」など、全部あげていったらこのページが終わってしまいます。

もちろん、遠い過去、変遷する環境にあわせて、多彩な食物を選び、進化していった結果なのでしょうが、もしこれらがみんな生き残っていたら？

動物園ではなく、専門の広大な「ゾウ園」を建設しなければなりませんね。そんな施設に出かけて、一日彼らを眺めてみるのもいいかも知れません。

「もっとむかしのゾウさんの仲間？：アフリカ獣類」

さて、最も原始的な化石ゾウ類でも、コビトカバか、ウシ程度の大きさがあります。彼らの起源はどんな動物だったのか？となると、近縁な哺乳類のグループは何か？ということになります。これが意外な顔ぶれなのです

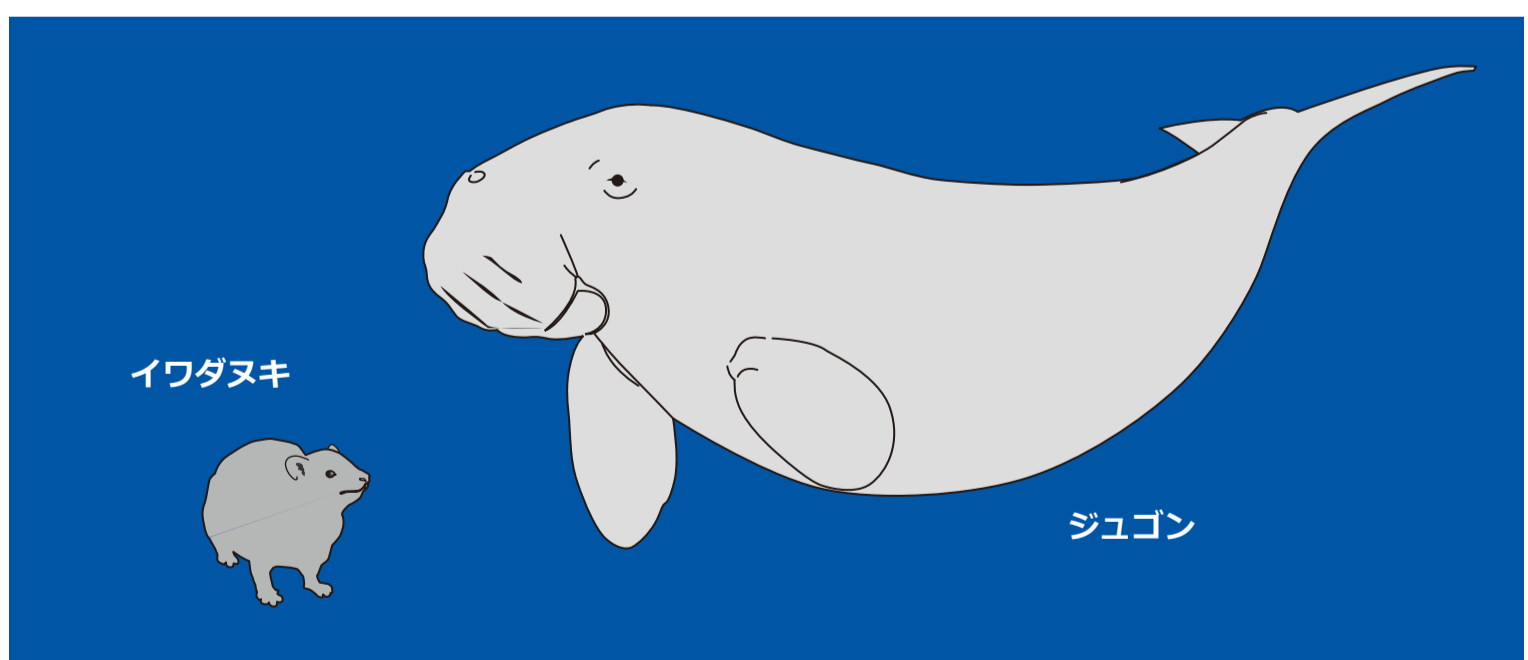
ゾウ達は、他の哺乳類のグループと、「アフリカ獣類」というグループに属します。

その顔ぶれを列挙すると、以下の通り。

- キンモグラ
- テンレック
- ハネジネズミ
- ツチブタ
- イワダヌキ
- ゾウ
- ジュゴン
- アルシノイテリウム（絶滅）
- デスモスチルス（絶滅）

なんだかゾウ以外は、すんなりと姿が思い浮かばないような動物ばかりです。それに「キンモグラ」とはいかにも、モグラに似ているのですが、日本にもいるモグラとはまったく縁がなく、むしろゾウに近いとは驚きです。これは遺伝子解析の結果で、どれほど姿が違ってても、近縁なことは間違いないということです。また、上記でゾウを挟んでいる二つの動物。水中のジュゴン、陸のイワダヌキ（実際タヌキほどの大きさ、姿の動物です）。ゾウを挟んで書いたのは意味があって、上記の中ではこの二つの動物が最もゾウに近縁ということ。大きな耳も、長い鼻もなく、ちっともゾウに似ていないのに。

絶滅したアルシノイテリウムとデスモスチルスは、上野の国立科学博物館などで骨格を見学できます。大型の動物ですが、ゾウに近いといわれると、これも思わず「う～ん。」と唸ってしまう姿です。



「ゾウさんの未来？」

見慣れたゾウの仲間の「長鼻類」は、もはや絶滅の危機にさらされています。過去5000万年ほどの歴史を振り返ると最近の人間の影響だけでなく、極端な特殊化で、もはやこれ以上の発展は難しく、かなり遠い過去から他の草食哺乳類に押されて終焉に向かいつつあるグループかも知れません。大人になったら無敵の身体でも、時代の趨勢には逆らえないのかも。

そして私たちが動物園で見るような、見慣れた動物がすべて姿を消す日が来るとしたら？それですべてが終わると思いますか？

私にはそうとは思えません。思いもよらない生き物がまた繁栄、進化して、未来の想像もつかない豊かな世界を、何度も作り上げると信じたいのです。

たったの5000万年、1億年、2億年と、時が過ぎ去った未来の世界では。